

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400027		
法人名	社会福祉法人 真和会		
事業所名	グループホームあしたば		
所在地	長崎県雲仙市瑞穂町伊福甲675・669		
自己評価作成日	令和6年12月24日	評価結果市町村受理日	令和7年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和7年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気的大事にして、安心して落ち着いた生活を送っていただけるように努めています。また、健康管理では、主治医の指示のもと適切な服薬介助や食事管理を行い、異常時はすぐ対応できるように支援しています。コロナウイルスやインフルエンザなどの感染予防にも法人全体での感染対策を取り組んでいます。
 食事に関しては、専門の調理員を配置し、季節の野菜を取り入れた食事を提供しています。今後も利用者様が満足できる手作りの料理を提供していきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雲仙市の高台に位置する当ホームは、眼下に有明海、背後には多良岳の山々を眺望でき、四季折々の景色が楽しめる場所にある。社会福祉法人が運営し、隣接してケアハウス、居宅介護支援事業所、通所リハビリ、訪問リハビリ、有料老人ホームがあり、地域住民が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう連携を取りながら支援を行っている。入居者が望む生活を実現する為に様々な取り組みが行われており、入居者の孫の結婚式に職員が付き添い参加するなど、入居者自身の「生きる」という想いを大切に支援を実践している。食事にもこだわりがあり、調理専門の職員が、地域で採れる旬の食材をふんだんに使用した手作りの料理を提供し、栄養面はもちろんのこと、入居者一人ひとりの食形態に合わせた食事を提供している。新型コロナウイルス感染症が広がる前までは、地域の初詣や夏祭り、保育園との交流など、地域との交流活動を積極的に行っていたが、感染症拡大の影響で現在は活動を縮小している。感染症が収束した後は、地域との交流支援を再開し、より地域に根差したホームとなることを期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:あしたば)	実践状況(ユニット名:ユニット 愛)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼後にグループホームあしたばの理念である「地域の中で普通に暮らし当たり前に自分らしく生きていく」を全員で唱和し意識を持ち共有し入居者の思いに寄り添い要望に沿うことが出来るよう努めている。	理念である「地域の中で普通に暮らし当たり前に自分らしく生きていく」を、毎朝の朝礼時に全員で唱和して、職員一人一人が利用者の立場を踏まえたケアができるように取り組んでいる。	理念「地域の中で普通に暮らし、当たり前」に自分らしく生きていく」を掲げ、職員は朝礼時に唱和し、理念の共有と浸透に努めている。職員一人ひとりが入居者それぞれの生活スタイルや個性を尊重し、その方に合ったきめ細やかなケアをチーム全体で提供できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類となり感染が緩和してきてはいるが、まだ引き続き注意が必要な中、徐々にではありますが、地域の行事に感染対策を行いながら参加したり地域との交流が少しずつ出来始めてはいます。コロナ前の地域の祭りや保育園の運動会やボランティア活動での慰問等の交流は実施されていないのが現状です。	新型コロナウイルスの影響で、感染対策を行いながら、地域の行事に参加したり、散歩などで挨拶を交わしたりしている。	コロナ禍以前は、近所の方などが半日ほど来訪され、入居者と交流する機会があったが、感染症対策のため、そのような交流が難しくなった。現在は地域の文化祭に入居者が制作した「ちぎり絵」を瑞穂町体育館に展示するなど、地域との繋がり維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中、高生の職場体験やボランティア活動の受け入れなどで認知症の理解や支援方法を体験してもらえよう実施していたが、コロナウイルスの影響で実践できていないのが現状である。	中学生の職場体験学習やボランティア活動の受け入れなどを行い、認知症の方の理解や支援方法を体験してもらえよう実施していたが、コロナウイルスの影響で実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染により運営推進会議を実施できず書面配布の時もあったが、2カ月に1回に運営推進会議を開催し委員の皆様にご利用状況、行事、ヒヤリハット、事故報告を行っている。委員の方々からの活発な貴重な意見を頂き、サービスの質の向上に努めている。	会議の中で事業所の状況報告を行い、構成員の方の質問や意見を伺いながら改善すべき点があれば早急に対応するように努力している。	運営推進会議には、民生児童員、市地域振興課職員、各ユニットの家族代表、法人代表、管理者、主任、介護職員が参加している。会議の中でヒヤリハットや身体拘束ゼロ、避難訓練の様子を報告したり、参加者から運営に関する助言がある場合には積極的に取り入れ、入居者にとって快適で安心できるホームを目指して取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:あしたば)	実践状況(ユニット名:ユニット 愛)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新時や入居者の手続き時で市町村担当者と必要に応じ窓口で質問したり、電話で確認する等している。推進会議に市町村担当者に参加してもらい協力関係を構築できるようにしている。	日頃から提出物等に窓口まで出向き、状況を伝えるようにしたり、必要に応じて電話においても担当者に意見や助言を頂いている。また、運営推進会議に参加して頂いている。	管理者は、日頃より市の窓口まで出向いたり、電話で市職員と連絡を密に取り合うなど協力関係を築いている。市の職員がホームに訪問し、入居者がマイナンバーカードを作成できるよう、市と連携して調整している。入居者のホームでの生活に関し、必要に応じて様々な関係機関と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を整備し、法人内で毎月1回の委員会を実施している。また、職員全体会議で身体拘束の勉強会を行い常に身体拘束廃止の取り組みを行っている。	法人全体で取り組んでおり、毎月委員会を開催している。施設内外部の研修にも参加して意識を高めている。	日々のケアにおいて、入居者一人ひとりの状態やニーズを把握し、身体拘束をしないケアを、当ホームを含む法人全体で取り組んでいる。身体拘束ゼロに向けた取り組みを推進するため、委員会を毎月開催している。また、職員全体の意識向上と知識・技術の習得を目指し、職員全体会議での研修や、eケアラボでのオンライン研修により最新の知識や技術の習得に努めている。	当ホームでは、身体拘束ゼロを目指し、全職員が一丸となって取り組んでおり、あらためて、身体拘束に関する3原則(「切迫性」「非代替性」「一時性」)の再確認と全職員へ周知徹底し、確認・手続き、記録の重要性について、全職員が十分に理解し、実践に取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の取り組みと同様に虐待防止も実施している。	研修に参加したり、事業所内で対応に問題が生じた場合は、職員間で話し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	機会があれば権利擁護に関する制度の研修会にも参加し知識を深めたいと思っている。	研修や資料で学んでいる。必要な方には、活用できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:あしたば)	実践状況(ユニット名:ユニット 愛)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はわかりやすく説明し同意を頂いている。長期入院などによる解約時にはご家族へ不安を与えないよう説明を行い改定時にも同様に説明を行い理解を頂いている。	契約時は、必ず契約書と重要事項説明書の内容を説明し、理解と納得された上で同意を頂いている。また、解約時や改定時も同様に説明を行い、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望の窓口を設置している。また第三者委員を配置し年に1回報告会を行っている。職員は入居者との日常会話から意見や要望を窺い、家族には電話や面会時に入居者の状況を伝え、意見や要望等を窺っている。	利用者様には、日頃から意見や要望を伺っている。ご家族様には、電話や面会時に日頃の状況を伝え、意見や要望を伺っていて、聞いた内容は、職員間で共有し、対応策を話し合っている。	ホーム入口に「ご意見箱」を設置し、家族等の意見・要望が投函できるようにしているが、現状では意見が集まりにくい状況である。家族の面会時や電話等においても、意見・要望を聴き取り、記録している。職員が日々のケアやコミュニケーションの中で、入居者の声に耳を傾け、意見・要望を聴き取っている。把握した内容は運営の改善に役立てることを目指している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議や勉強会の中で職員全員が意見を出しやすい環境作りに努め、改善が必要な事に対してはすぐに対応している。	毎月話し合いや勉強会を行い、意見や提案を出し合っている。改善が必要な事に関しては、すぐに対応するようにしている。	毎月開催される職員会議や、日々の支援の中で、職員が気づいた些細なことや、改善点などを積極的に吸い上げ、ホームの運営に活かしている。管理者は、職員一人ひとりとコミュニケーションを取り、いつでも意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一回のキャリアシートを使用し人事考課やフィードバック面接を行い、希望や意見を聞けるようにしている。向上心を持って働けるよう努めている。	定期的な人事考課において評価し、フィードバック面接により、希望や意見を聞けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:あしたば)	実践状況(ユニット名:ユニット 愛)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加はコロナ感染等にて難しい状況ではあるが、リモートでの研修参加は出来ている。また月1回の内部研修を行いその中に研修の報告する機会も設けている。介護労働安定センターの事業所セミナーや長崎県社会福祉協議会の研修をリモートで受講している。	毎月の法人内研修の他に必要に応じて外部研修へも参加できるよう勤務調整や費用の援助を行っている。研修内容は、報告書を提出し、職員間で情報を共有できるよう報告会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会主催の研修会など、コロナ感染等で実施出来ない状況である。	同業者の相互訪問まではできていないが、研修参加による交流の機会がある。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報をもとに生活歴などを把握しコミュニケーションを図りながら本人の希望や不安に対応できるように努めている。	利用の相談があった場合は、ご本人様に会い、心身の状態を確認し、不安や要望などを聞く機会を作り、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する段階で困っていることはないか、こうしてほしいという要望を出しやすい環境を設定し意見も含め聴取し信頼関係を育んでいけるよう努めている。	ご家族様に会い、不安や要望などを聞く機会を作り、サービス内容を確認しながら決めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:あしたば)	実践状況(ユニット名:ユニット 愛)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を得たうえでまず第一に必要なとしている支援を見極め最優先し他サービス職種との連携を図りながら可能な限り柔軟な対応に努めている。	情報を得た中で必要としている支援を見極め、他職種と連携を取りながら、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者がこれまで培ってきたものを尊重し受け身サイドにならない様支え合い関係を心掛け学び合う関係を築いている。	利用者様がこれまで築いてきたものを尊重し、学ぶ姿勢を忘れず得意とすることなど、習い学ぶことでお互いが心を開き、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やケアプラン作成時には日ごろの様子を報告し要望等ないか聴取し信頼関係を築くように努めている。	面会やケアプラン作成時には、日頃の状況を説明したり、希望や要望を伺い、利用者様とご家族様の絆を大切にしながら一緒に支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナも5類になって徐々に緩和されつつあるが、地域の行事などへ参加や交流も以前のようには出来ていないのが現状である。顔なじみの方との交流が途絶えないように、面会時はパーテーション越しで対応したり、タブレットでの通信ができるよう配慮している。	地元の神社への参拝や文化祭などの地域行事参加、ドライブに出掛けしている。感染予防対策を行い、ご家族様との外出もできており、ご家族様や知人との面会への配慮も行っている。	かかりつけ医への定期受診や、その他の用事などで、入居者が住み慣れた地域に出かける際は職員が同行し、外出を支援している。入居者の希望に応じて、入居前まで住んでいた地域をドライブしたり、思い出の場所を訪れたりする機会を設け、地域とのつながりを再確認する機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:あしたば)	実践状況(ユニット名:ユニット 愛)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や、関わりを観察し食席やリビングでお互いに過ごしやすいように見守りながら自然体で支え合えるような支援に努めている。	職員が利用者様同士の関係を把握し、一人一人が孤立しないよう食席やリビングで過ごす際の場所など確認し、利用者様同士が関わり合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関などへの利用が契約終了となっても継続的に連携室との情報交換を行い、継続的に関わりが持てるように努めている。	サービス利用が終了した方でも相談などあれば必要に応じて、情報を提供し、継続的な関わりが保てるよう母体施設と連携して支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で関わっていく上で利用者の思いや意向を聴取し把握に努めている。聴取困難な場合は利用者本位で検討している。	毎日の利用者様との関わりの中で、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。聴取困難な場合は、ご家族様から情報を頂き、職員間で話し合っている。	職員は、入居者との日常的なコミュニケーションを通して、趣味や嗜好、生活習慣、大切にしていることなどを把握するよう努めている。入居者が自身の意向を表明することが難しい場合には、家族からこれまでの生活や、大切にしてきたことなどを詳しく聞き取り、過去の介護記録などを確認し、状態や変化を把握しながら本人本位に暮らすことができるよう検討し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より生活歴や生活環境など経過を聴取し把握に努めている。	ご本人様やご家族様に今までの生活歴や暮らし方など伺い、ケアに活かせるよう職員全体で把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:あしたば)	実践状況(ユニット名:ユニット 愛)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用開始時やその後の面会時本人や家族から1日の過ごし方や心身状態の状況や日常生活の中で出来る事などの情報の聴取に努めている。	入居時や面会時に、ご本人様やご家族様に過ごし方や心身の状態などの情報の聴取に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望や意向を窺い主治医からの意見も含め職員と共によりよいケア内容を話し合い現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を作成する場合は、利用者様やご家族様から意向や要望を伺い、日頃の状態を基に、主治医からの意見も含めて、職員間で話し合い、作成している。	ホームでは、入居者一人ひとりの思いや暮らし方を尊重し、その人らしい生活を送っていただけるよう、担当職員による情報収集、計画作成担当者による聴き取りと課題分析、入居者本人・家族からの聴き取り、職員間での話し合い、介護計画の説明と同意、介護計画の実施と評価を通して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って職員間のケアの統一を図り、実践し記録・モニタリングをし情報の共有や介護計画の見直しを行っている。	介護計画に沿った統一したケアを実践し、個人台帳に記録している。また、職員間で情報を共有し、介護計画の見直し等に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況の意見など、その時々で本人や家族と相談しながら柔軟な支援ができるよう努めている。	その時々でご本人様やご家族様と相談しながら柔軟な支援ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:あしたば)	実践状況(ユニット名:ユニット 愛)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の力を発揮しながら豊かな暮らしを楽しむことができるように地域資源の把握に努めている。	地域資源の把握に努め、地域行事に参加することで、利用者様の豊かな暮らしに繋がれるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族と相談し適切な医療が受けられるように協力医の他に入所前のかかりつけ医にも相談し医療が受けられるよう支援している。毎月1回は受診している。	協力医の他に、利用前のかかりつけ医にも相談したり、利用者様とご家族様の意向を踏まえた医療が受けられるようにしている。	ホームの協力医がいるが、入居者が以前からお世話になっているかかりつけ医で受診を希望する場合、家族と相談の上、受診できるようサポートしている。医療と連携し、入居者の健康状態や治療状況などを共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	4月から看護師が在籍して日常の中でとらえた情報や気づきを伝えている。また、体調の変動時は主治医へ報告し指示を仰いでいる。	事業所内の看護師には、異常時や気づいた事を報告し、緊急時には、母体施設の看護師の協力を受けられるような体制作りを行っている。また、異常時は、主治医へ状態報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書などで情報交換を行っている。連携室や家族と相談しながら退院時への相談を行いながら関係づくりに努めている。	入院時には、情報を医療機関に報告している。その後は、連携室からの情報やご家族様からの情報を基に状況を把握し、早期退院できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:あしたば)	実践状況(ユニット名:ユニット 愛)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状態によりグループホームでの対応が困難な場合は家族 医療機関と相談しながら今後の方針を決めて支援している。	重度化した場合は、利用者様やご家族様の意向や主治医等相談しながら、施設で出来る事を説明し、今後の方針を決めて、支援している。	ホームでは入居者の看取りは行っていない。入居者が最期まで安心して過ごせるよう、入居時に本人や家族と看取りに関する意向を確認している。併設する老人保健施設や、他の介護医療院などと連携し、適切な医療や支援が受けられるよう対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に法人内の勉強会 応急手当や初期対応の訓練を行い実践力を身につけ対応できるようにしている。	法人内の勉強会や外部の研修に参加し、情報を共有して理解を深め、職員全員で対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	グループホームでは年2回は避難訓練を行っている。1回は自主訓練 1回は消防署立ち合いのもと実施している。また法人内でも定期的に避難訓練を行い協力体制を築いている。	毎年、避難訓練を2回行い、法人内での地震の訓練も1回実施している。災害についての法人内の勉強会にも参加し、協力体制を確認したり、情報の共有に努めている。	年2回、昼と夜の時間帯を想定した消防避難訓練を実施し、実際に入居者にも参加いただき、避難経路の確認や避難方法の習得を行っている。法人が運営する併設施設と連携し、合同での訓練を実施している。運営推進会議後には、民生児童委員や、市職員にも訓練の様子を見学してもらい、地域との協力体制についても検討している。	BCP(自然災害・感染症)に関する訓練や研修を実施されており、今後、訓練・研修の実施日時、参加者、内容、結果、改善点などを詳細に記録に残すことが望ましい。また、避難時において持ち出す入居者情報について、全身写真と胸上写真を合わせて確認することで、より詳細な状態把握に役立つものと思われる。今後、全身写真も追加しておくことが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいや対応など一人ひとりの人格を尊重し対応を行っている。排泄時 入浴時などプライバシーに配慮し対応を行っている。	接遇研修などで知識を身につけ、一人一人にあった言葉かけを行い、人格の尊重とプライバシーに配慮し支援している。	入居者一人ひとりの人格と尊厳を尊重し、その人らしい生活を支援するため、敬意を払い、丁寧な言葉遣いを心がけている。入居者の言葉に耳を傾け、話を遮らず、共感する姿勢を示している。入居者の生活歴や過去の仕事内容などを把握し、会話のきっかけにしている。趣味や興味のあることなど、入居者が関心を持つ話題を提供している。過去の経験や得意分野を尊重し、自尊心を高めるような声かけを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:あしたば)	実践状況(ユニット名:ユニット 愛)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人と関わりを増やしその都度コミュニケーションをとりながら思いや要望意向などについてもいつでも話ができるように信頼関係を築けるよう努め支援している。	日頃から利用者様が、思いや希望を気軽に話せるようにコミュニケーションを図り、出来る限り自己決定が出来るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動への参加は利用者様の意思を尊重している。強要はせず声かけし自室に閉じこもりにならないように支援している。	利用者様が望む活動に参加してもらうなどご本人様のペースを大切にした支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師が訪問し希望時に散髪を行っている。利用者様の希望や好みを大切に清潔を心掛けて季節や場所に適した身だしなみができるように支援している。	利用者様の希望や好みを大切に、使い慣れたものなどあれば、ご家族様に協力して頂き、職員間でも好みの把握ができるように情報を共有している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように旬の食材を取り入れて季節感を感じられる食事を提供している。禁忌食や嫌いなものは代替食を提供している。お盆拭きなど負担にならない程度で職員と共に行っている。	利用者様の好みや旬の食材を取り入れて、季節感を感じられる食事を提供している。利用者様には、野菜の皮むきや食後のお盆拭きなど、職員と一緒にいただいている。	地域で採れた旬の野菜などの食材を使用し、季節感を感じられる食事を提供している。毎月1日、15日は赤飯と刺身を提供している。刺身が苦手な方には、焼き魚に変更するなど、個々の好みに合わせた対応を行っている。入居者には、お盆運びやテーブル拭きなど、食事の準備に参加してもらい、役割を持つことで、食事への意欲を高め、楽しみながら準備ができるよう支援している。節分には恵方巻、ひな祭りには押し寿司など、季節のイベントに合わせた特別なメニューを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:あしたば)	実践状況(ユニット名:ユニット 愛)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の管理栄養士に献立のカロリー計算をしてもらいバランスのとれた食事の提供をしている。食事摂取量は毎食記録し摂取量が少ない時は補助食 栄養補助飲料などを提供し摂取量を確保している。	管理栄養士による献立のカロリー計算など栄養をバランス良く摂れるようにし、水分摂取量が少ない方には、嗜好品などで工夫して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアの声かけ 誘導を行い不十分な時は介助を行っている。	毎食後、口腔ケアの声掛けや誘導を行い、状態に応じて見守りや介助を行っている。歯科の往診を受けている方は、助言や指示を頂きながら支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らせるよう、時間を見ての声かけ 介助で排泄パターンを把握している。その方の排泄量に合ったパッドを選択し排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に一人一人排泄状況を記録し、把握に努め、ご本人様の状態に合わせ対応を行っている。可能な限りトイレで排泄できるように支援し、状態に合ったパッド類を使用している。	入居者一人ひとりの排泄パターン(時間帯、回数、量など)を把握するため、排泄チェック表を作成し、記録している。排泄パターンを分析することで、失禁のリスクが高い時間帯を予測し、定期的な声かけやトイレ誘導を行っている。オムツを使用していた入居者に対し、リハビリパンツへの移行を支援している。実際に、オムツを使用されていた方がリハビリパンツへの変更により、自立排泄ができるようになった。また、リハビリパンツとパッドを使用されていた方が、2時間ごとのトイレ誘導により、失禁がない状態まで改善された事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医とも相談しながら便秘予防を行っている。水分補給や食べ物などにも配慮し又運動不足にならないよう毎日集団体操などに取り組んでいる。	日々の生活の中で、体を動かす時間を設けたり、水分補給や食べ物などにも配慮し、必要時、主治医へ相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:あしたば)	実践状況(ユニット名:ユニット 愛)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様からの希望を伺い入浴の順番や時間などを考慮している。また体調や本人の希望に合わせて柔軟に対応できるよう支援を行っている。	一人一人の状態や希望に合わせて入浴日を決めているが、入浴の順番や時間等を配慮し、希望がある時は、対応できるようにしている。	冬は週2回、夏は週3回程度の入浴を支援している。入居者の気分や体調に応じて、入浴予定日は変更でき、入居者一人ひとりの希望やタイミングで入浴が楽しめるよう支援している。また、節句の菖蒲湯、冬至のゆず湯など、季節感を体感できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じてゆっくり過ごし安眠できるように柔軟な対応を行っている。寝具 衣類 空調 照明などの調整を行っている。	利用者様の生活パターンを把握し、一人一人に合った柔軟な対応を行っている。安眠できるように、室温調整や寝具、照明などの調整もを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は誤薬や飲み忘れがないように決められた手順に沿って支援している。一人一人の服薬内容を把握し適切な服薬介助を行っている。	全職員が薬の内容を把握し、健康管理シートをもとに情報の共有を行っている。服薬時は、誤薬や飲み忘れがないように決められた手順に沿って支援し、適切な服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの要望を日々の生活の中に取り入れその人らしく楽しく暮らしてもらえるよう支援を行っています。	利用者様やご家族様からの要望を日々の生活の中に取り入れ、これまでやってこられた事が継続でき、楽しく暮らしてもらえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:あしたば)	実践状況(ユニット名:ユニット 愛)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内の散歩を行ったり季節ごとにバスハイクなどの計画を立て外出したりと気分転換を図っている。	施設内の散歩や季節ごとにバスハイクの計画を立て、可能な限り利用者様の希望に添えるよう支援している。また、ご家族様の協力を得ながらご自宅などへの外出もできている。	家族との外出や、ホーム周辺の散歩など、入居者一人ひとりの希望に沿った外出支援に努めている。入居者の身体状況や体調に合わせ、無理のない計画を立て、付き添い等のサポートを行っている。コスモス、紅葉、桜など、季節の花見ドライブを企画し、車窓からの景色を楽しんだり、景勝地で散策したりと、気分転換になるよう工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族との相談のもと希望者のみ現金を所持している。要望に応じて買い物もできるように支援している。	利用者様やご家族様の希望がある時は、現金を所持して頂いている。必要時、買い物の支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればご家族との協力を得て手紙や電話のやり取りできるよう支援している。	利用者様やご家族様の希望時は、いつでも手紙や電話のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は移動時ルートに障害物がないように清潔保持に努め壁には季節を感じられるよう飾りつけをしている。	リビングや廊下には、花や置物などを飾り、季節感を感じてもらい、居心地良く暮らしてもらえるよう工夫している。	全体的に木の色調を基調とし、温かみのある雰囲気を出している。居室や共有スペースには、木材をふんだんに使用し、ぬくもりを感じられる空間づくりを心がけている。リビングには、テーブルと椅子、大きなソファを設置して、入居者は好きな場所に自由に座り、談笑したり、テレビを見たり、思いおもいの時間を過ごされている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:あしたば)	実践状況(ユニット名:ユニット 愛)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間の中で椅子やソファを設置し利用者同士の関係性を大切にしながら過ごしやすい環境づくりに努めている。	共用空間には、椅子やソファを置いて、ゆっくり過ごしてもらえるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室の寝具や家具は本人や家族と相談し使い慣れた物や好みのものを持ち込んで頂き心地よく過ごせるよう支援している。	利用者様やご家族様の要望を聞き可能な限り対応している。使い慣れた家具や好みの道具を活かして、安心して過ごせるよう工夫している。	入居者一人ひとりの身体状況や生活習慣に合わせ、ベッドや家具の配置を工夫し、動線を確保し、安全かつスムーズに移動できるよう配慮している。各ユニット2名の方には、身体状態を考慮し、低床型電動ベッドを提供し、転倒のリスクを軽減し、安全な生活をサポートしている。居室の清掃や整理整頓を定期的に行い、清潔で快適な環境を維持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、トイレの場所がわかりやすいように表示したり、手すりや介助バーの設置などを行い利用者様が安全に自立した生活を送れるように行っている。	利用者様の身体機能の状態に合わせた手摺りの設置や場所の目印など工夫を行っている。		